平成２９年度第４回講演会　記録

日　　時	平成２９年５月２７日（土）１３時～１６時
会　　場	此花会館梅香殿
講　　師	前加賀市長、NPO 法人・加賀の森と海を育てる会　会長　大幸　甚　先生
演　　題	加賀海岸緑化の普遍的価値　－世界遺産を目指して－
備　　考	参加者数　１６９名（会員１４９名、一般１９名、聴講１名）　　記録　藤原雄平

大幸　甚先生は、1999 年から 2009 年まで、石川県加賀市長を務められ、その間に地元の大学とも共同するなどして加賀市内の自然保護に尽力なさってこられた。市長職を退かれた現在も、ＮＰＯ法人・加賀海岸の森と海を育てる会の会長として、加賀海岸緑化の普遍的価値のＰＲに励まれ、加賀海岸の世界遺産化の実現に情熱を傾けておられる。本日の講演では、７月末の自然観察会で講座生が加賀海岸を訪問することを受けて、現地の見どころを中心に、加賀海岸の自然環境について故郷愛あふれるお話を伺うことが出来た。

≪講演概容≫

①加賀海岸は人が関与しなかったら存在していない。自然と人間の共同作業によって生まれたものである。冬の強い季節風という自然の猛威に対して、自然の力で対処する手段として砂防林の育成が必要とされ、江戸時代より主にマツの植林が行われてきた。これが加賀海岸の森林帯として今日まで存続してきた。

②加賀の地は平安時代から栄えた歴史があり、内陸を結ぶ船道でもあったし、北前船の活躍時には航路の要所でもあった。往時の面影を残す豪邸の集落もあり、九谷焼など文化面でも豊かな土地である。

③７月の満月の夜の海辺では、鹿島の森に生息するアカテガニの大集団が幼生を放出する様を見ることが出来る。海浜植物の群落（ハマゴウ、ネナシカズラ、イソスミレなど）や、イソコウモリグモ、ハイイロクモバチ、カワラハンミョウなどの多数の昆虫類、タヌキやキツネなどの哺乳類や、爬虫類、両生類と、加賀海岸は多様な生き物の生息地となっている。

④人工の片野鴨池周辺の湿地はラムサール条約登録湿地に指定されており、カモ類やオジロワシなどの鳥の楽園となっている。

⑤黒崎周辺では海岸に面した凝灰岩丘陵にハナショウブやユキワリソウの群生を見ることができる。また、黒崎の「黒」とは鉄のことで、海水に鉄分が豊富に供給されるので海藻が良く茂り、黒崎のワカメは宮中に献上されていた。魚類が産卵によく集まるところでもある。

⑥橋立漁港は北前船の港として栄えた所。北前船の資料館がある。

⑦市長時代に小学校の校舎前庭にビオトープを作ったが、今では各地からの見学がある。日本各地でも見習ってビオトープを作って欲しい。

⑧尼御前から加佐の岬にかけては、謡曲「実盛」で有名な齊藤実盛関係の史跡が多い。篠原の戦場の跡であり終焉の地でもあり、塚や首洗い池が残されている。

⑨加賀海岸の森は、人が作った、自然以上に自然な森であり、永久に残すべき人類の英知の証である。世界遺産として登録されるべき存在であるが、実現には残念ながらまだ時間がかかりそうだ。

≪田中先生まとめ≫

有吉佐和子の「複合汚染」を読んで環境問題に関心を持たれるようになったということを知って、大幸さんの原点が分かったような気がする。人と自然との関わり方で、自然は人間に押さえつけられるものという西洋流の価値観を変えさせることが世界遺産化には必要ではないだろうか。陸と海が一体化されたモデル的生態系を加賀海岸で確立させることが世界遺産化への道筋となるだろう。

以上